

令和7年5月1日

山形市野草園だより (5月号)



ミヤマカスミザクラ

2024.04.29 撮影

【これまでの野草園写真展入賞作品から】



「春らんまん」 齋藤一夫氏



「楽しい遠足」 渡部武三



「ヒメサユリ」 阿部洋子氏



「桜舞う」 行成光春氏



「九輪草Ⅱ」 菊地慶造氏



「楽しい学習」 鈴木典夫氏

山形市野草園

山形市大字神尾 832-3

電話 023-634-4120

野草園は **SUKSK**

ポイント対象施設



5～6月中旬の予定

◆開園期間・無休期間

- 開園期間 4/1（火）～11/30（日）
- 休 園 日 毎週月曜日（ただし 月曜日が祝日の場合は翌平日）
- 無休期間 4/15（火）～6/15（日） *花がたくさん咲く時季に合わせ、無休で開園します

◆無料開放日

- 日 時 5/4（日）みどりの日は無料開放日です

◆年間パスポート(今年度4月1日より)

- 購 入 山形市野草園料金所 ○内 容 購入日より1年間有効。
- ※購入者のみの使用に限ります。また、紛失した場合の再発行はいたしませんので、ご注意ください。
- 料 金 1,500円（※高校生以下は無料）

◆野草園は SUKSK ポイント対象施設

- 期 間 野草園開園期間 4/1（火）～11/30（日）
- 内 容 専用のスマホアプリで二次元コードを読み取るかポイントシールを受け取ることで、1回の来園で500ポイント付与（1日1回まで） 《詳細は「山形市 健康ポイント スクスク」で検索》

◆ガイドウォーキング

- 実施日 毎週日曜日・祝日 1日2回実施 * 春の無休期間と9月は土曜日も実施します
- 時 間 ① 10時30分～11時30分 ② 13時30分～14時30分
- 内 容 その日の見頃の場所・見頃の植物を案内
- 人 数 園内自然学習センター前集合
- 費 用 入園料300円（高校生以下無料）

◆博物館実習申し込み

- 募集期間 5月19日（月）～6月27日（金）
- 実施期間 9月 2日（月）～9月 7日（日）6日間

◆サクラ祭り

- 期 間 4/19（土）～5/6（火） 9:00～16:30
- 内 容 期間中はオオヤマザクラ、世界で野草園だけでしか見られないミヤマカスミザクラなどのサクラが次々に開花します。そして、期間中、様々なイベントを開催いたします
- ・サクラ祭り期間中の土・日・祝日に**さくらフィールドビンゴを開催しています**
9種類のサクラを探してビンゴカードをうめると参加者皆さんに景品をさしあげます
10:00～12:00（受け付けは11:00まで）
- ・5/ 3（土）～5（月）10:00～ やまがたまると市
- ・5/ 5（月）ポニー乗馬体験 ①10:00～11:30 ②13:30～15:00
※ 120cm 以下のお子様

◆自然と音楽の響演 in 野草園

- 山形交響楽団ホルン四重奏コンサート
5/10（土）13:30～
曲目 ホームページをご確認ください
- 山形市役所ウィンドアンサンブルコンサート
5/24（土）13:30～
曲目 ★さんぽ ★やさしさに包まれたなら ★勇気100%
★パプリカ ★ひこうき雲

◆第1回四季観察会

- 日 時 5/1 (木) 9:30~11:30
- 場 所 野草園内
- 内 容 ミヤマカスミザクラなど園内のサクラと早春の花々
- 定 員 20名 申込みは締め切らせていただきました



世界で野草園にしかない
ミヤマカスミザクラ

◆庭木を楽しむための基礎講座(第1回)

- 日 時 5/17 (土) 9:30~11:30
- 場 所 野草園内自然学習センター
- 内 容 初心者を対象に、庭木の生活リズム、管理について学ぶ講座
- 定 員 30名 申込みは締め切らせていただきました
- 持ち物 剪定ばさみ

◆子供向け花育ワークショップ

- 日 時 5/31 (土) 10:00~12:00
- 場 所 野草園内自然学習センター
- 内 容 季節の花を生けたり、花の絵を描いたりすることで、感性を育む
- 申 込 4才~中学生とその保護者 先着10組 5/6 (火) ~ 野草園まで電話で
- 参加費 材料代・入園料込3,100円(高校生以下2,800円)

◆薬草講座(第1回)

- 日 時 6/7 (土) 10:00~12:00
- 場 所 野草園内自然学習センター・薬草コーナー 等
- 内 容 園内を散策しながら生活に役立つ薬草について学習。薬草茶の試飲があります
- 申 込 先着15名 5/6 (火) ~ 野草園まで電話で
- 参加費 入園料込500円(高校生以下200円)

◆テラリウム教室

- 日 時 6/14 (土) 10:00~11:00
- 場 所 野草園内自然学習センター
- 内 容 ガラス容器にコケや植物を配置して制作
- 申 込 先着13名 5/20 (火) ~ 野草園まで電話で
- 参加費 材料代・入園料込2,500円(高校生以下2,200円)

カフェの営業・山野草販売 (於 自然学習センター)

- カフェ やまぼうし
《営業》土曜・日曜 10:30~14:30
《メニュー》カレー(ブラック・グリーン)、ピザトースト、サンドイッチ、バナナシェイク、コーヒー
- 山野草販売
《営業》土曜・日曜に販売予定(平日販売の場合もあり・夏の期間休業あり)

◆開花した花等の紹介

- 野草園のホームページから観察日記・Instagramをご覧ください
園内の様子や開花状況等をお知らせいたします。
- ホームページ内の「植物検索システム」で園内の植物を検索できます
現在600種ほどです。これからも検索できる植物を少しずつ増やしていく予定です



▲野草園観察日記▲

●● 5～6月の風景(昨年度のアルバムより) ●●



5月 四季観察会



5月 山形交響楽団 五重奏



5月 市役所ウインドアンサンブルコンサート



5月 緑の幼年団 結団式



6月 テラリウム教室

5月～6月はじめに見られる主な花たち

花期の短い植物もあり、訪れられる時期によって、見られない花もあります。(番号は下記の植物説明の番号)

「ツツジの丘」のツツジたち

24. ヤマトツツジ



23. レンゲツツジ



22. シロヤシオ



21. トウゴクミツバツツジ



「吉林の庭」
シダレザクラの
フोटスポット



7 ヤエベニシダレ
6 ベニシダレ

水草の池

ツツジの丘

スワンヒルの庭

七草の庭

アズマイチゲ & キクザキイチゲ



20. ミツガシワ



「野草の丘」のサクラたち

オオシマザクラ

ジュウガンザクラ



ジンダイアケボノ

ソメイヨシノ

ゴテンバザクラ

マメザクラ

5 オオヤマザクラ

4 エドヒガン



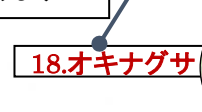
2 カスミザクラ



19. アズマシャクナゲ
白花と赤花があります



18. オキナグサ



1. クマガイソウ



ミズバショウ 葉が大きくなりました
本園のシンボルとなる植物。



2. キバナイカリソウ



リュウキンカ



3. イワカガミ



5. イヌザクラ



4. ウワミズザクラ



6. ニリンソウ



ハシリドコ



7. クリンソウ



8. ヤマシャクヤク



9. サラサドウダン



10. ヒメシャガ



11. ヒトリシズカ



12. サクラソウ



ユキツバキ



13. ウラシマソウ



14. シラネアオイ



15. シウリザクラ



17. フデリンドウ



16. タニウツギ



1. ヤマカスミザクラ



0 50 100m

●● 5月に見られる主な花 ●●

「場所」 は見られる主な場所



1 クマガイソウ(ラン科)

「ミヤマカスミザクラ脇」

杉林や竹林に多く、長い地下茎で繁殖する多年草です。ランではめずらしく幅広い2枚の葉がほぼ対生状につき、**袋状に大きくふくらんでいる花を茎の先に1個つけます。**

その昔戦場で矢よけのためにふくらませた布製の袋（母衣）を背負いましたが、袋状の唇弁を源氏の武将熊谷次郎直実の母衣（ほろ）に見たてたことが名前の由来です。



2 キバナイカリソウ(メギ科)

「薬草コーナー」

和名は花の形を船の碇に見たてたものです。**主に日本海側の山地に生える多年草です。花色は淡黄色で、4枚の花弁からのびた長い距が四方につきだし、前のほうに曲がっているのがよくわかります。**漢方では、強壮剤として有名です。



3 イワカガミ(イワウメ科)

「ロックガーデン」

花深山に生える常緑の多年草。茎は短く、しばしば地に接し、根ぎわに長い柄の径3～6cmの葉が群生します。葉は皮質で表面に光沢があります。初夏、葉の間から高さ10cmほどの花茎を直立し、総状花序をなして、**淡紅色の花を3～6個開きます。**萼5、花冠5裂、雄しべ5。蒴果を結びます。葉が径12cm位になるものをオオイワカガミといいます。



4 ウワミズザクラ(バラ科)

「クリンソウの谷」

花は葉の展開後に咲き、新枝に白く小さい花をブラシ状に多数つけ、その下部に葉が3～5枚つきます。花は長さ10cm程、小さな白い花は雄しべが長くて目立ちます。側枝が葉と共に落ちるので、冬芽の横に大きな落枝痕があります。仲間にイヌザクラやシウリザクラがあります。



5 イヌザクラ(バラ科)

「ロックガーデン」

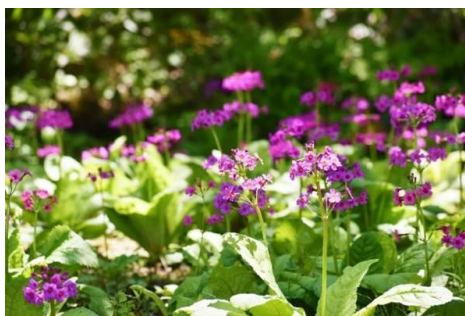
葉の展開後に、長さ5～10cmのブラシ状の花序を小枝の先に付けます。ウワミズザクラに似ていますが、花序はやや小さく、その下の花柄に葉が付きません。個々の花は白い5弁花で雄しべが花弁より長いです。若木の樹皮が白っぽいことから、シロザクラとも呼ばれることがあります。



6 ニリンソウ(キンポウゲ科)

「藤棚そば」

ひとつの茎に2個の花をつけることが名前の由来ですが、花は1個のときもあれば3個のときもあります。白色の花弁状の萼片は5～7枚あります。中央に両性花があります。葉は3つに深く裂けていて、淡白色の斑点があります。葉が毒草のウゼントリカブトにそっくりです。



7 クリンソウ(サクラソウ科) 「クリンソウの谷」

山地の湿地などに生える多年草で、長楕円形の大きな葉の表面はしわがたくさんあります。花が開く頃に花茎はぐんぐん伸び、**紅紫色の花を5～7段輪生状に多数つけます**。日本のサクラソウの仲間では最も背丈が高いようです。クリンソウ（九輪草）は、寺院の塔の頂上部にある九つの輪の装飾（九輪）に例えて名づけられたようです。



8 ヤマシャクヤク(ボタン科) 「マグノリア通り」

林の斜面などに生育する多年草です。葉は2回3出複葉で、両面とも無毛で柔らかいです。白い花の花弁は5～7枚、雄しべは多数でやくが黄色く、雌しべが3個で柱頭が赤黒いです。**3～4日で花は散ってしまいます**。



9 サラサドウダン(ツツジ科) 「マグノリア通り」

深山の林内や林縁、岩場に自生し、**ドウダンツツジの仲間では最も北方まで分布しています**。花は淡紅白色で**紅色の縦の筋があります**。更紗のような模様が名前の由来になっています。白いドウダンツツジと花の形は似ていますが、壺形にならず先が広がり鐘形になるところが違います。



10 ヒメシャガ(アヤメ科) 「マグノリア通り」

山地の林の下などに生える多年草です。草丈が20～30cm、葉先が尖る細長い葉を株立ちさせ、**根茎が横に這って増えていきます**。花がシャガに比べてやや小型なので、《ヒメ》がつきました。径4cm程の淡紫色の花を2～3個咲かせます。外花被片の中央は白色で、紫色の脈と黄色の斑紋があり《とさか状》の突起があります。



11 ヒトリシズカ(センリョウ科) 「コゴミロード」

高さは10～30cm。**葉は4枚が輪生状に付き光沢があります**。茎先に1本の穂状花序を出し、**ブラシ状の小さな白い花をつけます**。一本で生えるのは稀で、普通群生するようです。名前の由来はこの花の可憐さを愛でて静御前になぞらえたものと言われています。近縁種のフタリシズカが花穂を2本以上出すのと対比させています。



12 サクラソウ(サクラソウ科) 「クリンソウの谷」

山地の湿り気の多い所に生える多年草で、花が美しいことからよく家庭で栽培され、園芸品種も多いようです。**葉は楕円形でしわが多く縁は浅く切れ込んでいます**。名前はサクラに似ているからついたようですが、**サクラソウは合弁花で5枚に見えるハート形の紅紫色の花弁は下がくっついていて筒状になっています**。



13 ウラシマソウ(サトイモ科) 「ひょうたん池西側」

一見、マムシグサに似ていますが、**肉穂花序の先端の付属体が長く伸長し、釣り糸に見えるのが特徴**で、浦島太郎の釣り道具に例えたことが名の由来です。紫の花弁に見えるのは肉穂花序を包む仏炎苞です。サトイモ科なので肥大する地下茎を作り、ある程度大きくなると雄株から雌株に性を変えます。



14 シラネアオイ (キンポウゲ科) 「ひょうたん池西側」

日本特産の1属1種の植物で、多雪地の山地に生える多年草です。**淡紫色の花は花弁状の4枚の萼片です**。中央に黄色い多数の雄しべと2つの雌しべがあります。葉は手のひら状に分かれています。

名の由来は日光の白根山に多く、花がタチアオイに似ているからです。



15 シウリザクラ(バラ科) 「ひょうたん池西側」

葉の展開後に、ブラシ状の花序を小枝の先に付けます。**長さ10～20cm**。ウワミズザクラに似ていて、その下の花柄にも葉が付きます。違いは葉の基部がハート形で、葉柄の上部に蜜腺があることです。**個々の花は白い5弁花で雄しべと花弁の長さが同等です**。樹皮には独特の香気があり、アイヌ文化では魔除けとして使われたこともあるそうです。



16 タニウツギ (スイカズラ科) 「クリンソウの谷」

主に日本海側の山地に生える高さ2～3mの落葉低木です。小枝の先端に、**淡紅色の先が5裂した漏斗形の花が2～3個ずつまとまってつきます**。田植えの時期に花が咲くので「田植花」とも呼ばれます。多くの地方名があることから、人々と深いかわりがあったことがわかります。



17 フデリンドウ (リンドウ科) 「案内標識②付近」

山野の日当たりのよいところに生える小さな**2年草**です。秋に咲くリンドウとくらべると小形です。**茎の半ばから上に対生の葉をつけ、その先に青紫色の花を数個つけます**。花は上向きに咲き、日光が当たると開き雨天や夕刻では閉じます。茎の先につく花のつぼみ（正確には花が閉じたとき）の形が筆の穂先を思わせることが名前の由来です。



18 オキナグサ (キンポウゲ科) 「料金所円形花壇」

花は花茎の先に1個つき、**つり鐘形**です。**葉は白い毛でおおわれ、花弁状の萼片の外側にも白い毛が密生しているので白っぽく見えます**。**萼片は6個あり、内側は暗紫赤色です**。花が終わった後、**雌しべは長い羽毛状の果実の集まりになります**。それを老人の白髪にたとえて、オキナグサ（翁草）という名前が付けられたと言われています。



19 アズマシャクナゲ(ツツジ科) 「シャクナゲの丘」

東北地方など東国に分布するので、この名が付けられました。枝の先に花芽が1個つき、そこから数個の花が咲きます。**白花と赤花の株があります。花は漏斗形で広く開き、先は5裂します。常緑の葉は革質で、裏面に灰褐色の真綿状の軟毛があるのが特徴です。**



20 ミツガシワ(ミツガシワ科) 「ミズバショウの谷」

氷河期には広く分布していたと推定される寒冷期の遺存種です。山地の沼や沢などに生える多年生の水草で、泥中に太い根茎があります。三ッ柏の紋章に似ているという、名前のもとになった3枚の葉と並んで花茎を立て、白い小さな花を咲かせます。じょうご形の花をよく見ると、花卉に白い縮れた毛が密に生えていて目を引きます。



21 トウゴクミツバツツジ(ツツジ科) 「ツツジの丘」

若枝や葉柄には長軟毛が密に生えます。**枝先に葉が3個輪生のが特徴です。花は枝先の1個の芽のなかに葉芽とともにあり、開葉前に普通1～2個ずつ咲きます。花冠は紅紫色、径3～4cmの漏斗形で5裂します。雌しべの花柱の下半部に細かい腺状毛がやや密生します。関東の山で多く見られるのでトウゴクの名がつけられました。**



22 シロヤシオ(ツツジ科) 「ツツジの丘」

太平洋側の山地に多く、葉と同時に開く花は白いので清潔な感じのするツツジです。名も花が白いことからきています。花は広い漏斗形で先が5裂して**上面の花弁の内側に緑色の斑点があります。葉は枝先に5枚輪生状に付くことからゴヨウ(五葉)ツツジとも言われます。**



23 レンゲツツジ(ツツジ科) 「ツツジの丘」

つぼみの様子をレンゲの花に見たてた名です。草原や林縁に生える落葉低木で、葉の展開と同時に朱橙色の花が開花します。1個の花芽から2～8個の花が咲き、日本のツツジの中ではもっとも大きい花を付けます。花卉の上側に斑点があるのと、葉の表にしわがあるのが特徴の1つです。有毒植物で家畜が食べないので牧場などに多くあります。



24 ヤマツツジ(ツツジ科) 「ツツジの丘」

北海道から九州まで広く分布し、日本人の多くに親しまれているツツジです。半常緑低木で、春にでて秋に落葉する**春葉**と夏から秋にでる**夏葉**があり、夏葉の多くは越冬します。**花の上面に濃紅色の斑点があります。花の色には変化があり、紅紫色や白色のヤマツツジもあります。**

●● 5月に見られる主なサクラ ●●



🌸 1 ミヤマカスミザクラ(バラ科) 自然交配種

本種は**ミヤマザクラ**と**カスミザクラ**の節間雑種（節という分類を越えた自然交配種）で、両者の一部の特徴を引き継いでいる貴重な桜です。本園で発見された桜です。**花の付き方はミヤマザクラのように総状**（1本の花軸から数本の花柄が交互に伸び花が付く）で丸い苞葉が目立ちます。

30年前の野草園開園時には、今の場所に自生していたそうです。樹齢は明確に分かりませんが、40年以上と推定されます。

通常、カスミザクラが先に開花し、その後ミヤマザクラが開花します。しかし、何十年か前に2つのサクラが同時に開花し、種ができ、地面にこぼれ、発芽し、成長し、今、私たちの目の前にあると想像されます。世界で山形市野草園でだけでしか見られないミヤマカスミザクラは、いくつもの幸運な偶然が重なって誕生した「奇跡のサクラ」なのです



🌸 2 カスミザクラ(バラ科) 基本野生種 「大平沼西側」

ジュウガツザクラ、オクチョウジザクラ、ミネザクラ、オオヤマザクラに続き、**ヤマザクラが開花した後に、葉の展開と同時に開花します**。花は白っぽくヤマザクラに似ていますが、**花柄に毛があるので区別できます**。ヤマザクラよりも標高の高い所に多く生え、寒冷地を好みます。名前の由来は、開花時の花の様子を霞に例えたものだそうです。



🌸 3 ミヤマザクラ(バラ科) 基本野生種「クリンソウの谷」

山地に生育し、南に下るにつれて亜高山帯に多くなります。**“深い山の桜”**ということから、**ミヤマザクラ**という名前がついています。ヤマザクラやカスミザクラより開花が遅く、葉が開いてから花が咲きます。**枝に総状花序を出し、白い花をつけ、花弁は先が円く、裂けていないことが特徴です**。



🌸 4 エドヒガン(バラ科サクラ属) 基本野生種 「野草の丘」

名前の通り春の彼岸ごろに花を咲かせます。（ソメイヨシノより早い）花は薄紅色から白で花弁は5枚で1重です。**萼のつけ根が丸く膨らんでいるのが大きな特徴**。**葉より先に花が咲きます**。ヤマザクラと共にサクラの中では非常に長寿の種で、樹齢1000年以上の巨木も存在します。

大方のサクラの**幹の筋**は横目ですが、**エドヒガンは縦目**なのが見分けるコツです。



🌸 5 オオヤマザクラ(バラ科サクラ属) 基本野生種「野草の丘」

東北地方や北海道に多く、それ以外の地域ではやや標高の高い山地に生えています。**ヤマザクラよりも葉や花が大きいことが名前の由来**です。赤っぽい色をした**若葉が開くと同時に淡紅色の花を咲かせます**。花色はヤマザクラより濃いですが個体差があります。**小花柄は無毛**です。



🌸 **6 ベニシダレ(バラ科サクラ属) 園芸品種 「吉林の庭」**
エドヒガン系の園芸品種の枝垂れ型です。もっと花色が薄い桜
 に、シダレザクラ(枝垂桜)があります。枝垂桜より後に咲
 き、花は平開しません。**花色は紅紫色**で花弁数は5枚、**萼筒は**
細長く、毛が多いのが特徴です。



🌸 **7 ヤエベニシダレ(バラ科サクラ属) 園芸品種「吉林の庭」**
エドヒガン系の園芸品種の桜の1種です。東北地方以南が適
 地です。江戸時代から栽培されています。**花が八重咲き**で濃い
 紅色をしたシダレザクラです。枝花とも下垂し、**開花は葉に先**
行します。萼筒は濃紅紫色で太い壺形で、毛が多いです。花弁
 が展開するにつれ花色が濃紅紫色から淡紅紫色へと変化しま
 す。

日本の基本野生種は何種類？

「日本の固有種で、日本に自生する10もしくは11種あるサクラ属の基本野生種の一つ」と
 いった表現に出会いますが、さて10種類とは(○数字は園内にあるサクラ7種)

- ① ヤマザクラ(山桜) ② オオヤマザクラ(大山桜) ③ カスミザクラ(霞桜)
 ④ オオシマザクラ(大島桜) ⑤ エドヒガン(江戸彼岸) ⑥ チョウジザクラ(丁子桜)
 ⑦ マメザクラ(豆桜) ⑧ タカネザクラ(高嶺桜) ⑨ ミヤマザクラ(深山桜)
 ⑩ カンヒザクラ(寒緋桜) です。

一方で、11種類目として挙げられることがあるのは「**クマノザクラ**」(熊野桜)だそ
 うです。これは比較的新しく発見された種(2018年3月13日に正式に「クマノザク
 ラ」と命名され、新種として発表されました。)で、和歌山県熊野地方を中心に自生し
 ていることからその名が付けられました。

昨年から、学名入り看板を作成しています。植物名の**緑色**の背景は「**草本**」、**青**
色は「**木本**」、**赤色**は「**有毒植物**」になっています。「サクラ属&ウワミズザ
クラ属」は**ピンク**の背景になっています。

ミズバショウ(サトイモ科)

学名 *Lysichiton camtschatcensis* (L.) Schott (Araceae)

シベリア東部、サハリン、千島列島、カムチャツカ半島と日本の北海道と中部地方以
 北の本州の日本海側に分布する。南限の兵庫県養父市の加保坂峠にも隔離分布して
 いる。約1万株自生する野原のシンボル。バショウとは葉の長さ1~1.5m、幅50cm
 程の大きな葉をつける植物で、バナナの仲間である。ミズバショウの葉も花後は約80
 cmにもなるのでバショウと名が付いた。花弁に見える白い部分は、仏炎苞(ぶつえん
 ほう)と呼ばれる葉が変化したもの。和名「水芭蕉(ミズバショウ)」は、バショウの葉に似て、水辺に咲くため。



開花前 花期 4月~5月上旬 花後の葉 冬芽

シロヤナギ(ヤナギ科)

学名 *Salix dolichostyla* Seemen subsp. *dolichostyla* (Salicaceae)

北海道、本州の東北地方および北陸地方、関
 東地方北部に分布する。国外ではヨーロッパ、
 アジア、北アフリカに広く分布している。特
 に川沿いや湿地など、水分の多い場所によく
 見られる高さ20~30mになる落葉喬木。雌雄
 異株。若い木の樹皮は滑らかで緑色で、成木
 になると灰色で深い縦裂の皮目が入る。葉は
 互生し、長さ5~11cmの長楕円状披針形から
 披針形で先は尖り、縁には波状の鋸歯がある。
 表面は濃緑色、裏面は粉白色または緑長く、
 先端が尖っており、表面は緑色で裏面は銀白
 色をしている。春に雄花は黄色い葯が目立つ
 花序をつけ、雌花は緑色でふくらとした柱
 頭を持った花序をつける。受粉後、綿毛の付
 いた種子を飛ばす。
 和名「白柳(シロヤナギ)」は、葉の裏面が
 白く輝く様子から、この名前が付けられた。

花期 4月

ヤマブキソウ(ケシ科)

学名 *Hylomecon japonica* (Thunb.) Prantl et Kündig (Papaveraceae)

本州、四国、九州に分布する。国外では中
 国に分布する。山野の樹の下に生える多年草。
 茎や葉に黄色い汁を含む。茎は直立し滑らか、
 高さ30~40cm。ヤマブキ科の非花の木本に對
 し、本種は4弁花の草本。根出葉は多数羽状
 複葉で長い葉柄がある。小葉は先端はとがり、
 縁は切れ込みと細かい鋸歯がある。春、葉腋
 に鮮やかな黄色い花を1~2個つける。緑色
 の萼片は2個あり、開花直前に落ちる。雄し
 べは多数。雌しべは1本。蒴果は直立し、長
 さ3cm位。茎や葉を切ると黄色の乳液が出る
 のはケシ科の特徴。全草にアルカロイドを含
 み、誤って食べると吐き気、手足のしびれ、
 呼吸障害などの症状が見える。
 和名「山吹草(ヤマブキソウ)」は、別名ク
 サヤマブキとも書かれているように、花がバラ
 科のヤマブキに似ていることが名の由来。

花期 5月上旬~中旬

QRコードで検索!

植物名プレートのQRコードを読み取ると
 「山形市野草園植物検索システム」にリンクし、
 写真や様々な情報を手元でご覧いただけます。
 是非ご活用ください

(順次、準備を進めています) ←

例
 QRコードを読み取ると、
 そのページにリンクします



ミズバショウ

